

散布月日	散布時期	薬剤調合法(水 100㍓当たり)	収穫前日数	散布量(107㍓当たり)	発生病害虫名	注意事項
/	1 発芽直前直後 (3月下旬～4月上旬)	水 100 ㍓ ベフラン液剤 25 125 m㍓ スプレーオイル 2 ㍓ (展着剤不要)	休眠期 芽出直前直後	300㍓	越冬病害虫 腐らん病	○発芽直後の散布は早めに行う ○うどんこ病の被害枝は見つけ次第剪除する。 ○ベフラン液剤25㍓に替えてベンレート水和剤2,000倍 50g(収穫前日)散布しても良い。 ○腐らん病の被害枝は切除するかまたは削り取り(そ皮削りを行う)、トップジンMペースト又はハッチレート(塗布剤)を塗る。
X	特別散布 発芽10日後	コロナフロアブル 250 m㍓	-	350㍓	うどんこ病	
/	2 開花直前	水 100 ㍓ 展着剤 表参照 オンリーワンフロアブル 50 m㍓ デミリン水和剤 33 g	-7日前 30日前	400㍓	黒星病 黒点病 うどんこ病 斑点落葉病 ケムシ類	○アブラムシの発生が多い園では、開花直前にウララDF 4,000倍 25g(収穫前日)を散布する。 ○開花直前と直後の防除は赤星病・黒星病防除の重要な時期であるので散布間隔をあけすぎないように注意する。 ○ケムシ類の発生が多い場合、デミリン水和剤に替えてバイオマックスDF2,000倍 50gを使 ○デミリン水和剤は指定地域外では使用しない。
/	3 落花直後 中心花が80%散った時	水 100 ㍓ 展着剤 表参照 インダーフロアブル 10 m㍓	14日前	450㍓	赤星病 うどんこ病 ハマキムシ類 リンゴタムシ類 キンモンソコガ ギンモンハモグリガ	○この回の殺虫剤散布の時は、訪花昆虫(ミツバチ)を必ず果樹園からひきあげる。 ○この回の散布は落花直後を厳守し、それ以降落花25日までは生理落花を防ぐため有機リ剤を使用しない。 ○うどんこ病多発園ではインダーフロアブルに替えて、アンビルフロアブル1,000倍 100ml(収穫前日)を散布する。
/	4 落花10日後	水 100 ㍓ 展着剤 表参照 トレノックスフロアブル 200 m㍓ トップジンM水和剤 66 g スイカル 100 g	30日前 前日	450㍓	シンクイムシ類 ウシムシ類 カイガラムシ アブラムシ マイマイガ	○うどんこ病の芽しぶの除去を徹底する。 ○腐らん病防止のため園の一斉点検を行う。 ○黒点病・斑点落葉病の防除に大切な時期であるから散布量を多くするなど特に注意すること。(落花直後)
/	5 5月下旬～6月上旬頃 (12日後)	水 100 ㍓ 展着剤 表参照 トレノックスフロアブル 200 m㍓ テルスターフロアブル 33 ml スイカル 100 g	30日前 前日	500㍓		
/	6 6月中旬頃 (12日後)	水 100 ㍓ 展着剤 表参照 オキシラン水和剤 200 g スプラサイド水和剤 66 g カナメイトフロアブル 100 m㍓ スイカル 100 g	14日前 30日前 7日前	550㍓	赤星病 黒点病 斑点落葉病 炭疽病 すす点・すす斑病 ハマキムシ類 シンクイムシ類 カイガラムシ ハダニ類 カメムシ類	○クワコナカイガラムシの防除の重要な時期であるので丁寧に散布すること ○斑点落葉病の発生が多い場合は、ロブラール水和剤1,500倍 66g(収穫前日)を特別散布する。
/	7 6月下旬頃 (12日後)	水 100 ㍓ 展着剤 表参照 ベンコゼブ水和剤 166 g ダイアジノン水和剤 100 g	30日前 30日前	600㍓		サイアノックス水和剤(収穫45日前)は収穫前日数が長く、散布タイミングが遅れると早生種に影響があるため変更。
/	8 7月上旬頃 (12日後)	水 100 ㍓ 展着剤 表参照 ナリア WDG 50 g サムコフロアブル10 20 m㍓	前日 前日	600㍓	斑点落葉病 炭疽病 輪紋病 褐斑病 シンクイムシ類	○褐斑病の多発が予想される場合は、トップジンM水和剤1,500倍 66g(収穫前日)を加用する
/	9 7月中下旬頃 (14日後)	水 100 ㍓ 展着剤 表参照 オキシラン水和剤 200 g アルバリン顆粒水溶剤 50 g オマイト水和剤 133 g	14日前 前日 3日前	600㍓	斑点落葉病 炭疽病 褐斑病 すす点・すす斑病 ハマキムシ類 シンクイムシ類 ハダニ類	○この時期より次の散布までの間、シンクイムシの被害果は採取して処理する
/	10 8月上旬頃 (14日後)	水 100 ㍓ 展着剤 表参照 キノドーフロアブル 125 m㍓ ディアナ WDG 10 g	14日前 前日	600㍓	キンモンソコガ コナカイガラムシ	○徒長枝は早めに処理する。
/	11 8月中旬頃 (14日後)	水 100 ㍓ 展着剤 表参照 フリントフロアブル 33 m㍓ イカズチ WDG 66 g ダニサラバフロアブル 100 m㍓	前日 前日 前日	600㍓	斑点落葉病 すす点・すす斑病 シンクイムシ類 ハダニ類	○キンモンソコガ・ギンモンハモグリガの発生が多い場合は8月下旬に、ノーモルト乳剤4,000倍 25m㍓(収穫前日)を特別散布する。 ○散布間隔が空く場合は、ベフラン液剤 1,500倍 66ml(収穫前日)を特別散布する。
/	12 9月上旬頃	水 100 ㍓ 展着剤 表参照 ベフラン液剤 25 66 m㍓ アルバリン顆粒水溶剤 50 g	前日 前日	600㍓	斑点落葉病 すす点・すす斑病 シンクイムシ類 ハマキムシ類 ギンモンハモグリガ	○ダニの発生園ではマイトコーネフロアブル1,000倍 100m㍓(収穫前日)を散布する。
/	特別散布 中晩生種	雨の多い場合は、すす点病・すす斑病、斑点落葉病の防除のため9月下旬(つがる収穫終了後)スライド顆粒水和剤1,500倍(水100㍓に 66g 収穫前日)を散布する。 (ただし、シナゴールド・王林には果面に薬害が生じることがあるので散布しない)				
X	13 12月中旬頃	水 100 ㍓ アビオンE(展着剤) 100 m㍓ ベフラン液剤 25 125 m㍓	- 休眠期	300㍓	腐らん病	○散布前に腐らん病の点検処理を行う。 ○ベフラン液剤25㍓に替えて石灰硫合剤を使用する場合 → 水 90 ㍓ アビオンE 100 m㍓ (休眠期の使用) 石灰硫合剤 10 ㍓
落果防止剤散布						
/	特別散布 収穫開始予定日の25日～7日前	水 100 ㍓ ストップボール液剤(展着剤不要) 100 m㍓	7日前		収穫前落果防止	○2回散布の場合は10日程度間隔をあける ○果実及び果そうを中心に丁寧に散布。 ○標準的な散布量(10㍓当たり)は、動噴で400㍓ SSで500㍓程度。
薬剤名		希釈倍数	種類に対する効果	ステージに対する効果		凡例(効果) ○効果ある △効果やや劣る ×効果ない ◎周辺環境に配慮した防除を心がけましょう。 ① 適正な栽培密度とし、重なり枝の間引きや枝切り等を実施し作業性を良くして散布死傷をなくす。 ② 徒長枝やひこばえ等病害虫の温床となる部分は、病害虫の発生時期を考慮し随時除去する。 ③ 農薬散布時は、住宅地・みつばち・畜舎等の周辺環境に十分配慮し、農薬が飛散しないように注意しましょう。 ④ 地域全体でコンピューターの使用に取組、環境に配慮した防除を実施しましょう。
ダニサラバフロアブル	1,000	○	卵	幼若虫	成虫	
オマイト水和剤	750	○	○	○	○	
カナメイトフロアブル	1,000	○	○	○	○	
マイトコーネフロアブル	1,000	○	○	△	○	
◎殺ダニ剤は特定のものを回数多く使用しないで交互に使用する。 ◎ヒメボクトウ被害に(ロビンソフト)480ml、スプレー缶)を食入初期に樹枝の食入孔へ差し込み噴射(収穫前日、年2回)						

～ 消費者に信頼される農産物の生産供給に向け、更なる安全安心生産体制の確立強化をお願い致します ～

- 農薬の使用に当たっては、使い慣れた農薬であっても必ずピンや袋のラベルを確認しましょう。
- 登録のない農薬は絶対に使用しない。適用外作物への使用は罰則の対象になります。
- 事前にタンクやホース内に農薬残液がないか必ず確認しましょう。
- 器具の洗浄をしっかりと行いましょう。
- 有効期限の切れた農薬は使用禁止になっている場合もあるので使用せず、不要農薬として適正に処分してください。
- 防除日誌は必ず記帳しましょう。